

第24期生の皆さん 卒業(修了)おめでとう

東京都職業能力開発協会会長賞(グランプリ)永瀧将也さんに聞く！

建築カレッジの2年間とこれから・・・



「技能照査」課題の「化粧棒隅木」と共に

3月27日、第24期生の修了式が行われました。感染予防のため、来賓は一部に限定、祝賀会は無しでした。グランプリ（最上位賞）受賞の永瀧将也さんに2年間の思い出、今後の決意を聞きました。

1) 入学したきっかけ：東京土建の紹介で建築カレッジを知りました。プレカット材の住宅しかやってなかったの、学校見学で見た墨付けと手刻みは新鮮でした。

2) 印象に残っている授業は？：「実習棟実習」です。通し柱の墨付けを一人でやりました。カンナがけで腹筋もつきました。

3) 卒業制作について：スタートが遅かったので後の方が大変でした。「床の間」は納まりで高い精度が求められ、決まり事も色々あり、苦労しました。取り付け、固定のやり方を悩みながら完成させたものの、先生方からの指摘を受け、今後の学習課題を思い知らされました。

4) 仕事との両立は？：父と二人でやっているため、現場に集中しなければならないことがあり、グループ作業や授業内容についていくのは大変でした。卒制などでは仲間迷惑をかけたことも。



5) 入学を迷っている人にアドバイスを：入って損はないと思います。実技実習の中心である大工技術は先生たちがていねいに教えてくれます。なかなか理解できないことは繰り返し教えてくれます。建築の知識・技術の向上に確実につながります。自分はそのチャンスを十分に生かすことができず、少し悔いが残りました。

6) これからの目標をお聞かせください：「建築大工技能士」を取りたいです。この2年間で鋸（のこぎり）使い、鑿（のみ）使いは多少上手くなったので、この経験を生かして、資格取得に尽力したいです。

永瀧さんは墨田区の永瀧工務店で父と二人で働いています。家族経営的な町の工務店の後継者育成も建築カレッジの役割の一つです。

共通質問項目
①カレッジに入って良かったことは
②一番印象に残っていること
③友人や後輩などに入学を勧めたいですか
④当面の目標

◆金村太一さん ①仲間
②卒制。③勧めたいです。
④大物になる！
◆亀谷岬さん ①周りに仲間ができたことです。
②卒制で「仏壇」をつくったことです。③勧めたいです。④仕事を頑張ります。
◆佐藤有真さん ①仲間ができた。②卒制。③はい。④一生懸命頑張る。
◆高橋龍賢さん ①実践を踏まえたことで、より建築について深く学ぶことができました。②技能照査試験が一番大変だったけれど、大工としての腕がとても目に見えるので記憶に強く残っています。③この道に興味があります。

2年間のカレッジ生活を終えて 卒業生（修了生）全員に聞きました

る人にはとても勧めたいです。④自立して一人前の大工になり工務店を背負っていきける人間になりたいです。
◆寺田有佑さん ①仲間が出来た。②コロナ事件、卒業制作。③自分で探したほうがいい。④とうりょう（棟梁）になります。
◆永瀧将也さん ①仲間ができたこと。②実習棟の上棟。③（勧めたいかどうか）五分五分です（笑）④技能士取得に向けて頑張りたい。
◆新田幸士さん ①レポートを書いたり、人前で発表することが習慣となり、スキル（技術）が身に付きます。②川崎市立日本

来年4月入学のご相談は
お気軽に！



学校公式
サイトの
アクセス

カレッジ通信

編集・発行
東京建築カレッジ

授業見学
大歓迎！

TEL 03
(5950)
1771



第24期は入学16人・修了11人。どちらも過去最低を更新。少人数のクラスは教育効果上、良い面もあったはず。今後の精進に期待したいと思います。

民家園の見学。「船越の舞台」を見て想像力がかき立てられました。③志や情熱のある人であれば、始めるのに遅いことはないのでも勧めます。④木造建築士、二級建築士、2級建築大工技能士。

◆野上晟史さん①手刻みができるようになったこと。②卒業制作。③はい。④建築士、施工管理技師の資格を取る。

◆本間美帆さん①同業の仲間に出会えたこと。基礎が学べたこと。②授業は毎回濃かったのでエピソードを選んで挙げることが難しい。③建築への見解を深めたいのであれば。④二級建築士を受験、合格をめざしたい。

◎教務運営委員会代表 橋本英夫先生から
「世の中そんなに甘くないよ。まだ君たちには光るものが見えない。私の中では君たちは修了してない。これから光るものが見せられるようになったら、いつでも見せに来なさい。君たちに感謝するとしたら、私に指導のありかたについて課題を与えてくれたことだ」



上＝「組み立て式茶室風和室」班（新田、寺田、須藤事務局次長）、下＝「仏壇」班（金村、亀谷、佐藤、野上）



計画から完成まで1年をかけて実施する教育プログラムが「卒業制作」。一定のルールに基づき、テーマ設定から取り組ませます。ゼネコンを疑似的につくり、完工をめざし、仲間と力を合わせる教育実践です。大学の卒業設計とは違った意義があります。



上Ⅱ「床の間」班（永瀧、高橋、原田、平沼）、右Ⅱ「キャットタワー」班（本間）。建築カレッジでは伝統的な日本建築重視の教育のため、床の間や茶室といった和室系を題材にすることが多くなっています。これらの要素を現代生活にどう生かすか、問われています。



第24期生 卒業制作発表会 3月13日（土）非公開で開催